

■ 研究集会（入場無料・一般入場可）

7 件の研究委員会が、研究成果の発表や討論会を企画しました。開催日時・場所については、下記詳細をご参照ください。

7月9日（水）（第1日目）

9：30～12：30 （4階 404-406室）

名 称	プレストレス技術の今、そして未来 ～土木で使える建築の PC 技術，建築で使える土木の PC 技術～	
主 催	プレストレス技術の有効利用に関する研究委員会（委員長：西山峰広・京都大学大学院教授）	
集会形式	パネルディスカッション	
概 要	<p>本研究集会は2部構成となっており，第一部では，現在，土木と建築分野で進んでいるプレストレス技術に関するプロジェクトを紹介いたします。これらには，研究段階のものから，実際の施工例，関係法令までを含みます。また，これらに基づき，プレストレス技術の有効利用と今後の建設技術について考え，特に，アンボンド PC を用いたリユース可能な建築物，意匠性，構造性能，施工性，居住性および耐久性向上を目指した PC 技術の有効利用，高強度・高性能コンクリート活用のための PC 技術を紹介し，議論します。</p> <p>第二部では，土木で使える建築の PC 技術，建築で使える土木の PC 技術をテーマに土木と建築互いの技術評価を行います。さらには，土木では常識であるような PC 技術が建築では非常識であったり，あるいは，その逆であったり，土木・建築間で技術交流を図るとともにさらなる技術進化を目指して討論します。</p>	<p>主 な プ ロ グ ラ ム</p> <p>【第一部：技術の紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工性と修復性の向上を目指したアンボンド PC 事務所建築：塩原 等（東京大学） ・PC リ・ブロックユースシステム建築：菅田昌宏（竹中工務店） ・高強度高性能コンクリートを活用するための PC 技術 ・質疑応答 <p>【第二部：パネル討論】</p> <p>パネリスト：</p> <p>春日昭夫（三井住友建設），深井悟（日建設計），堤忠彦（富士ピーエス），上田博之（竹中工務店）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木で使える建築の PC 技術，建築で使える土木の PC 技術 ・土木の常識＝建築の非常識，建築の常識＝土木の非常識 ・討論

13：30～15：45 （4階 404-406室）

名 称	被災構造物の復旧性能評価に関する報告会	
主 催	JCI 被災構造物の復旧性能評価研究委員会（委員長：白井伸明・日本大学教授）	
集会形式	報告会	
概 要	<p>本研究委員会は，2004 年度 1 ヶ年の FS 委員会「被災構造物の補修・補強後の耐力変形状」に引き続き，2005～2006 年度の 2 ヶ年にわたり，主として 3 つの活動；具体的には，①供用期間中の構造物の性能変化を含む耐震設計法の枠組みの検討，②被災した構造物の性能劣化程度の評価法の検討，③補修・補強後の構造物の性能の検討，を行い「復旧（修復）性能を明確にした耐震設計法」を構築することを目的として活動を行ってきました。</p> <p>本研究集会では，本委員会の活動成果を総合的に取りまとめ，会員各位に報告するとともに，「復旧性能を明確にした耐震設計法」について意見交換する機会を提供したいと考えています。</p>	<p>主 な プ ロ グ ラ ム</p> <p>【開会挨拶】 白井伸明（日本大学）</p> <p>【委員会報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動概要：中村光（名古屋大学） ・被災構造物の損傷評価：田嶋和樹（日本大学），岡野素之（大林組），北嶋圭二（青木あすなる建設） ・補修・補強後の性能評価：小林薫（JR 東日本），稲熊弘（JR 東海），藤永隆（神戸大学）， ・復旧性を考慮した耐震設計法：衣笠秀行（東京理科大学） <p>【質疑】</p> <p>【閉会挨拶】 白井伸明（日本大学）</p>

16 : 00~18 : 45 (4 階 404-406 室)

名 称	既存構造物の性能評価モデルコードに関する JCI-KCI ジョイントセミナー		
主 催	既存構造物の性能評価モデルコードに関する JCI-KCI Joint Committee 準備委員会 (委員長：三橋博三・東北大学大学院教授)		
集会形式	英語によるセミナー形式		
概 要	<p>サステナブルな地球環境の構築が求められている今日、既存構造物の性能を適切に評価し、継続・再利用の可能性を探ることの重要性が増大している。そのような社会的情勢の中で、既存構造物の性能評価に関する国際規格(ISO 13822)が、2001年に制定されたが、すべての構造物を対象とした一般事項の規定にとどまっている。また、鉄筋コンクリート構造物を対象としたものは、近年になって ISO/TC71 により小委員会が設立されたものの、未だ国際規格は制定されていない。</p> <p>そこで、JCI と KCI がそれぞれに委員会を設けて研究を重ね、それらの成果を持ち寄る形で、これまで 2 年間にわたって年 2 回の合同委員会を開催し、既存構造物の性能評価モデルコードの制定をめざして取り組んできました。本研究集会では、その中から特徴的な幾つかの話題について諸会員にその成果を披露し、意見交換を行いたいと考えています。</p>	主 な プ ロ グ ラ ム	<p>【話題提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> • JCI-KCI 合同委員会活動の取り組みの概要：三橋博三（東北大学） • 社会基盤構造物の性能評価研究センターの活動概要：Jin-Keun KIM (KAIST, Korea) • 韓国に於けるこれまでの既存構造物評価コードの概要：Ha-Won SONG (Yonsei Univ., Korea) • 韓国に於ける新しい既存構造物評価コード（案）の概要：Jin-Keun KIM (KAIST, Korea) • アル骨反応による損傷を受けた既存構造物の性能評価事例：岸利治（東京大学） • 確率論的手法に基づく新しい既存構造物評価法の概要：Soo-Bong SHIN (Inha Univ., Korea) • 将来性能の評価－耐久性能の新しい考え方：野口貴文（東京大学） • JCI-KCI 合同委員会活動のこれから：米澤敏男（竹中工務店） <p>【意見交換】</p>

7 月 10 日 (木) (第 2 日目)

9 : 00~12 : 00 (3 階メインホール)

名 称	コンクリートポンプ施工技術「安全と品質」に関するパネル討論会		
主 催	コンクリートポンプ施工技術調査委員会 (委員長：十河茂幸・(株)大林組技術研究所副所長)		
集会形式	パネルディスカッション		
概 要	<p>近年、コンクリートポンプを用いた圧送工事において、コンクリートの不具合や事故が多発しているとの報告があります。これらの原因として、ポンプ車の老朽化やコンクリートの高強度化などが一因との見解もあります。しかし一方で、建設システム自体にも問題がありそうです。つまり、コンクリート圧送工事に関係する機械メーカー、生コン製造者、施工会社、発注側など、分業化が進むとともに専門性が高まり、それぞれの役割が明確にされる反面、境界面での責任が不明瞭になっているといえます。</p> <p>本研究集会では、各界を代表するパネラーによる議論を通して、コンクリートポンプ車の安全性の確保、およびポンプ圧送がコンクリートの品質に及ぼす影響などについて、その実状と課題を整理し、今後のポンプ圧送のあり方についての手掛かりを得たいと考えています。</p>	主 な プ ロ グ ラ ム	<p>【開会挨拶】 和美廣喜（島根大学）</p> <p>【話題提供講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安全上の課題：十河茂幸（(株)大林組） • 品質上の課題 早川光敬（東京工芸大学） <p>【パネリストによる討論】</p> <p>コーディネーター： 中田善久（日本大学）</p> <p>パネリスト： 岡本圭市（(株)岡本建設重機） 吉兼亨（(社)全国生コンクリート工業組合連合会） 宇治公隆（首都大学東京） 千々岩伸佐久（極東開発工業(株)） 柳井修司（鹿島建設(株)） 太田達見（清水建設(株)）</p>

9 : 00~12 : 00 (4 階 404-406 室)

名 称	ここまできたコンクリートの自己修復	
主 催	セメント系材料の自己修復性とその利用法研究委員会 (委員長:五十嵐心一・金沢大学教授)	
集会形式	報告会とパネルディスカッション	
概 要	<p>発生したひび割れをコンクリート中に存在する未水和セメントの再水和により塞ぐ方法や、補修剤を封入したパイプ等の人工デバイスを用いる方法など、いわゆる"自己修復 (治癒)"は、設計手法の確立や実用化ができるほどのデータの蓄積や定量評価がなされていません。本研究委員会では、これらの自己修復 (治癒) 機能に関する既往の研究を再整理し、自己修復機能の定量評価や数値解析による予測技術の確立、自己修復機能のポテンシャルを高めた高機能材料開発の可能性について議論をしています。</p> <p>本研究集会では、①委員会での議論の概要紹介、②海外や他分野での動向紹介、③日本における当該研究分野の最新情報の紹介、④パネルディスカッション、を予定しています。</p>	<p>主 な プ ロ グ ラ ム</p> <p>【委員会報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会趣旨説明, 概要など:五十嵐心一 (金沢大学) ・海外, 他分野での動向など:国枝稔 (名古屋大学) ・最新情報の紹介: <ul style="list-style-type: none"> <自然治癒系> 濱田秀則 (九州大学), 佐川孝広 (日鐵セメント(株)) <自律治癒系> 安台浩 (東京大学), 細田 暁 (横浜国立大学) <自動修復系> 西脇智哉 (山形大学) <p>【パネルディスカッション】</p> <p>コーディネーター: 三橋博三 (東北大学教授)</p> <p>パネリスト: 岸 利治 (東京大学准教授) 坂井悦郎 (東京工業大学教授) 宮川豊章 (京都大学教授)</p>

13 : 00~15 : 00 (4 階 404-406 室)

名 称	成熟したアセットマネジメントの実現を目指して—課題と展望—	
主 催	コンクリート構造物のアセットマネジメント研究委員会 (委員長:宮川豊章京都大学大学院教授)	
集会形式	パネルディスカッション	
概 要	<p>近年, 多くの自治体等で, アセットマネジメント (AM) の概念を導入した構造物群の維持管理が進められています。しかしながら, 我が国における AM は未だ産声を上げたばかりと言え, 将来にわたり成長し, 成熟したものとするためには, 多くの課題を抱えています。今後, 厳しい財源下で老朽化し続ける構造物を適切に維持管理し, 丈夫で美しく長持ちするものとして後世に引き継ぐためには, 今ある AM をさらに発展させ, 市民に受け入れられるものとする努力が不可欠です。</p> <p>本研究集会では, 「コンクリート構造物のアセットマネジメント研究委員会」で議論した内容をベースに, 現在進められている AM の課題を掘り下げ, 将来にわたり成長を続け, 実効性のある AM とするための展望 (方策) について議論します。</p>	<p>主 な プ ロ グ ラ ム</p> <p>【開会挨拶】 宮川豊章 (京都大学)</p> <p>【委員会の概要報告】 服部篤史 (京都大学)</p> <p>【趣旨説明】 岩城一郎 (日本大学)</p> <p>【話題提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学 の 立 場 か ら : 森川英典 (神戸大学) ・産 の 立 場 か ら : 保田敬一 ((株) ニュージェック) ・官 (国) の 立 場 か ら : 横田弘 (港湾空港技術研究所) ・官 (自治体) の 立 場 か ら : 川村宏行 (青森県) <p>【質疑・応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセットマネジメントからインフラマネジメントへ: 河野広隆 (京都大学) <p>【閉会挨拶】 岩城一郎 (日本大学)</p>

7月11日(金)(第3日目)

9:00~12:00 (4階 404-406室)

名称	— いつまで続くひび割れ問題 — パネルディスカッションと温度ひび割れ制御指針の紹介		
主催	マスコンクリートのひび割れ制御指針改定委員会 (委員長: 佐藤良一・広島大学大学院教授)		
集会形式	パネルディスカッションと報告会		
概要	<p>コンクリートの初期ひび割れに関する問題は、若材齢の時期の問題であるために施工に関係する要因が大きく影響し、ひび割れ発生の判定、ひび割れ幅の評価が非常に難しい。そのため、コンクリート工事に関与する技術者のそれぞれの立場(発注者、設計者、施工者、材料の供給者等)の違い、初期ひび割れに関する技術認識のレベルの違い等から、ひび割れ発生に関する責任の所在、その結果生じる経済的負担などの問題が生じている。そこで、パネルディスカッションを通して、温度ひび割れに関する正しい技術の理解、それぞれの立場の相互理解を深め、現場におけるトラブルの解決の端緒となるように議論する。</p>	主なプログラム	<p>【パネルディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none">・コーディネーター: 佐藤良一委員長・パネリスト : 発注者, 監督官庁, 設計コンサルタント, 施工者 (土木分野, 建築分野), 材料メーカー, 学識経験者などから・議論の主題: マスコンクリートのひび割れ制御指針の基本思想・主旨と各立場の実務者間の認識のギャップ — いつまで続くひび割れ問題 — <p>【マスコンクリートのひび割れ制御指針の紹介】</p> <ul style="list-style-type: none">・改訂の主旨: 十河茂幸副委員長・制御指針の全体概要: 金津 努幹事・温度ひび割れの照査方法: 溝淵利明幹事